

【必修】今求められる教育のあり方と支援

【選択必修】国内外の教育事情とその変化

- 期日 【必修】今求められる教育のあり方と支援 平成 30 年 8 月 6 日(月)
【選択必修】国内外の教育事情とその変化 平成 30 年 8 月 7 日(火)
- 主な対象 幼稚園、小学校、中学校・高等学校保健体育教諭
- 定員 130 名
- 会場 たまプラーザキャンパス
- 応募期間(仮申込) 平成 30 年 4 月 16 日(月)10:00~4 月 19 日(木)23:59
- 受講料 1 万円

【必修】今求められる教育のあり方と支援

- 時間数 6 時間 【必修領域】「全ての受講者が受講する領域」

■講習内容

世界がグローバル化し一国の事情だけでの教育は困難となっている。教育の普遍性が求められるが、特に倫理、道徳領域は文化的背景を越えたスタンダードが必要となろう。国際的広がりとともに最近は個人の多様性も叫ばれている。発達障害が注目され、その理解と支援法が研究されている。本講義はこのような今日的課題を分かりやすく解説する。

■担当講師

- 田沼 茂紀 國學院大學人間開発学部教授
- 池田 行伸 國學院大學人間開発学部教授

■シラバス

講義名	グローバル化時代における学校教育のアプローチ
担当講師	田沼 茂紀
講義概要	<p>本講義では現代的な課題が山積する学校教育にあって、子どもの学びを軸にした学校づくりをどう進めていくのかという視点と、教師の多忙化が慢性化している中で高度専門職としての自己研鑽をどう継続していくのかという視点で展開していきたいと考える。具体的な講義の柱となる事項は、以下の4点である。</p> <ul style="list-style-type: none">①新学習指導要領（平成 29 年 3 月改訂）で目指している「生きる力」と資質・能力形成の在り方について②わが国の学校教育が解決すべきこれからの課題と世界の教育動向について③子どもの学びを育むためのカリキュラム・マネジメントの進め方について④反省的実践家としての教師の専門性の高め方と実践的視点について本講義では一方向的な学びではなく、双方向的な「主体的・対話的で深い学び」が体験できるよう、創意工夫ある展開を心がけていく。

評価方法	本講義での学びを通して、①今日の学校教育の課題について、②教職の社会的使命と自己研鑽の必要性について、この2点について理解できたかを最後に論述してもらうことで評価とする。
------	---

講義名	脳科学から発達を理解し教育的支援を考える
担当講師	池田 行伸
講義概要	近年の脳科学の進歩は心の構造の解明にまで迫っている。本講義は幼児、児童、生徒の心を知るために脳についての基礎的な内容を講義する。高次脳機能を担う大脳の働きについて主に講義するが、全く初めて学ぶ人にも分かるように講義する。文字を目で読み理解する力、目的を達成するために手順を考えその通りに実行する力、感情を抑えまわりとうまくやっていく力なども大脳の働きである。このような機能が悪い状態は高次脳機能障害である。いったん備わった高次脳機能が加齢によって衰えると認知症である。事故による脳損傷の後遺症などでもこのような機能障害は起きる。発達途上の子どもの能力が年齢に比べて低いままであれば発達障害である。このような発達障害の理解を踏まえて、発達障害児に向き合う教育を考える。
評価方法	講義の最後に講義内容に関して基礎的理解を見る○×方式か選択式の客観テストを行う。講義に耳を傾けていれば容易な問題である。

【選択必修】国内外の教育事情とその変化

■時間数 6時間【選択必修領域】「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」

■講習内容

現代社会においては、子ども・保護者・家族のあり方の問題や課題が多様化、複雑化、深刻化してきている。国内外の教育事情や近年の教育現場の実情を踏まえて、最新の学校教育のあり方や子ども支援の仕方について提案する。そして学校組織、教育行政、教育委員会など、近年の教育をめぐる状況の変化を多角的視点から考察する。

■担当講師

新富 康央 國學院大學人間開発学部教授
小笠原 優子 國學院大學教育開発推進機構教授

■シラバス

講義名	国の教育政策や世界の教育動向～学ぶ子どもの視点に立った教育課程への動向～
担当講師	新富 康央

講義概要	<p>「子ども主体」の教育の有り様が叫ばれて久しい。個人的にも30年前、「主体性能力」という言葉を用いた当時は、周囲にはまだ特異な主張ととらえられた。しかし今や、「資質能力の育成」をキーワードにして、「何を教えるのかではなく、子どもたちの生きる力を教育課程がどう支援していくか」という方向へと確実に舵を取るようになった。教育者としては、ルソー（「整数1の人間」）やペスタロッチ（「彼自身の作品」）が唱えた子ども主体の教育の再興ととらえたい。この教育動向は実は、日本独自のものではない。米国の『危機に立つ国家』（1983年）に始まる世界的な教育動向でもある。総じて、クイズ型学力からPISA型（生涯学習型）学力への移行である。能力端的に言えば「工業化社会」から「脱工業化＝高度情報化社会」への社会変革に応じた対応でもある。これらの経緯を、特に「ゆとり教育」批判との兼ね合いを踏まえながら、皆様と一緒に考えていきたい。</p>
評価方法	テストを実施します

講義名	学校を巡る近年の状況の変化―学校を巡る問題と学校内外の連携協力
担当講師	小笠原 優子
講義概要	<p>社会の変化の中、子どもたちに自ら判断し行動する力を育み、子どもたちを見守り育てる環境づくりをするためには、家庭や地域との連携協力の充実が必要である。学校を巡る近年の状況の変化を、子どもたちの姿から、また保護者や地域社会の学校教育に対する関心等からとらえ、学校と地域社会が共に子どもたちを育てる教育の果たす役割について考える。さらに、どのように子どもたちのための環境づくりを行い教育の質の改善や説明責任を果たしていくべきか、次の内容について考える。</p> <p>(1) 学校を巡る「危機」の状況と学校の危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内外の安全確保に関する内容 ・ 情報セキュリティなど近年の状況を踏まえた内容 <p>(2) 問題に対する組織的対応の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校組織の一員としてのマネジメントマインド形成、校内体制の確立、保護者・ 地域社会との連携 ・ 対人関係、日常的コミュニケーションの重要性 <p>本講習では、様々な教育課題を抱える学校の現状をとらえ、取り組みの実践例から学びながら学校の課題解決に向けての対応についての理解を深めたい。</p>
評価方法	<p>「学校を巡る近年の状況の変化―学校を巡る問題との学校内外の連携協力」についての講義から理解した内容、学校現場における実態と照らし合わせ考慮すること等について小テストを行う。</p>